

VMware vCloud Usage Meter 3.6 リリース ノート

VMware vCloud Usage Meter 3.6 | 2017 年 7 月 13 日 | ビルド 5967943

このリリースノートの追加事項や更新事項を確認してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [新機能](#)
- [製品ドキュメント](#)
- [サポートされるブラウザ](#)
- [アップグレード](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

vCloud Usage Meter 3.6 を使用すると、VMware NSX、vSAN、および vRealize Operations Manager の使用量を詳細に計測できるようになるほか、vCloud Availability for vCloud Director の使用量の計測も可能になるため、環境の運用効率が大幅に向上します。

NSX の使用量計測

vCloud Usage Meter 3.6 では、使用されている機能に基づいて仮想マシンごとに NSX のエディションが自動的に検出されるため、エンド ユーザーのニーズに応じて NSX の使用量を拡張して、効率的に利用料金を支払うことができます。

月次使用量レポートの月次使用量ユニットセクションでの測定単位が「仮想マシンの数」から「仮想マシンの平均数」に変更されました。

vSAN の使用量計測

vCloud Usage Meter 3.6 は、使用されている vSAN 機能を検出し、vSAN 使用量の課金率を自動的に決定します。vCloud Usage Meter 3.6 は、vSAN が有効になっているクラスタごとに vSAN の使用量を計

測します。新しいクラスタ履歴レポートには、vSAN が有効なすべてのクラスタの履歴データが含まれます。このレポートのデータには、使用容量 (MB)、レポート対象月全体のストレッチ クラスタ、IOPS の制限、重複排除、イレージャ コーディングなどの vSAN 機能のオン/オフ ステータスが含まれています。

vRealize Operations Manager の使用量測定

vCloud Usage Meter 3.6 は、サービス プロバイダでホストされている vRealize Operations Manager によって管理される、テナント インフラストラクチャ アーキテクチャをサポートしています。vRealize Operations Manager の使用量を計測する場合、vCloud Usage Meter 3.6 はパワーオン状態の仮想マシンの平均数を計算します。

自動レポート

vCloud Usage Meter 3.6 は、レポートを自動的に生成して VMware に送信します。vCloud Usage Meter は、レポートを生成して自分自身、アグリゲータ、またはその他の場所に送信するように設定することもできます。

vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションに初めてログインする場合は、VMware への自動レポートの使用条件が記載されたポップアップ ウィンドウが表示されます。使用条件に同意しない場合、vCloud Usage Meter は使用できません。vCloud Usage Meter 3.6 は、VMware にレポートを送信する前にすべてのレポートを暗号化し、お客様の機密データを難読化します。

運用上の強化点

vCloud Usage Meter 3.6 では、次のような強化が行われています。

- オペレーティング システムがアップグレードされたことにより、既知のセキュリティ脆弱性が修正され、大規模な計測が可能となっています。
- CVE-2017-1000364、CVE-2017-1000365、および CVE-2017-1000367 の解決に必要な複数のオープン ソース コンポーネントが更新されています。
- セキュリティの強化のために、TLS 1.1 と TLS 1.2 のバージョンのみが有効になっています。vCloud Usage Meter 3.6 では、デフォルトで TLS 1.0 が無効になっています。他のバージョンの TLS は有効にできません。vCloud Usage Meter で Web ブラウザをインターフェイスとして利用する際には、TLS 1.1 または TLS 1.2 をサポートしていることを確認します。
- API のサポートが拡張されています。
- 計測機能が強化されています。
- 移行中も計測データが維持されるようになったため、アップグレードに伴う問題が解消され、メンテナンス用時間枠のスケジュールリングを完全に自由に行えるようになりました。アップグ

レードは vCloud Usage Meter 3.5 から行えます。

- vCloud Usage Meter 3.6 では、デフォルトで ESXi vSphere の評価モード ライセンスがすべて vSphere Enterprise Plus として計測されますが、vCloud Usage Meter Web アプリケーションでライセンスの請求カテゴリをデモに変更できます。

製品ドキュメント

最新版のリリース ノートに加え、次の資料を含む vCloud Usage Meter 3.6 のドキュメント セットが提供されています。

- [vCloud Usage Meter 3.6 ユーザー ガイド](#)
- [vCloud Usage Meter 3.6 の相互運用性のページ](#)
- [vCloud Usage Meter 3.6 API リファレンス](#)
- Partner Central (<https://www.vmware.com/partners.html>) にある『vCloud Air Network プロダクト利用ガイド』（要ログイン）

サポートされるブラウザ

vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションは、次の Web ブラウザと互換性があります。

- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Microsoft Edge
- Microsoft Internet Explorer
- Safari

vCloud Usage Meter 3.6 は、次の Web ブラウザのバージョンに対してテストされています。古いバージョンを使用することもできます。

Windows

Windows 10

- Microsoft Internet Explorer 11.576.14393
- Microsoft Edge 25.10586.672.0

Windows 8.1

- Mozilla Firefox 52.0

Windows 7

- Google Chrome 58.0.3029.110

OS X Yosemite

- Mozilla Firefox 35.0.1
- Google Chrome 59.0.3071.115
- Safari 9.0.1 (10601.2.7.2)

Linux

Ubuntu 14.04.5

- Google Chrome 59.0.3071.115 (64 ビット)

アップグレード

vCloud Usage Meter 3.6 は、新しいアプライアンスとしてインストールされます。vCloud Usage Meter 3.6 には vCloud Usage Meter 3.5 のデータを移行できます。

vCloud Usage Meter 3.5 からは設定や計測データを移行することができ、アップグレード後は新しい vCloud Usage Meter 3.6 インスタンスを使用して、インストールが行われた月の使用量レポートを作成できます。

migrateum 操作を実行すると、アップグレード前の vCloud Usage Meter インスタンスから dbdump がエクスポートされて、アップグレード後の vCloud Usage Meter インスタンスにインポートされます。その後、NSX、vSAN、および vRealize Operations Manager の変換処理が行われます。dbdump のエクスポートとインポート、および変換処理には相当な時間がかかります。vCloud Usage Meter 3.5 インスタンスで NSX、vSAN、および vRealize Operations Manager が計測の対象として追加されていない場合は、移行完了までの時間が短くなります。移行完了までの時間に影響を与えるその他の要因としては、ネットワーク、仮想環境、ストレージなどがあります。テスト結果によると、migrateum の実行には約 3 ～ 10 分かかります。

解決した問題

- vCloud Usage Meter で計測されている製品のアップグレード工程に証明書の更新が含まれている場合、Web アプリケーションの「製品の管理」ページにアップグレード後の製品が表示されない

この問題は修正されました。

- vCloud Usage Meter は、デフォルトで TLS 1.0 を無効にしている製品に接続できない

この問題は修正されました。

既知の問題

厳密なテストを通じて、以下の既知の問題が見つかりました。このリリースで遭遇する可能性がある、いくつかの動作を理解していただく上で役立ちます。

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [全般](#)
- [移行](#)
- [レポート作成](#)

全般

- **NEW:** vCloud Usage Meter 3.6.1 で固定 IP アドレスを持つ仮想マシンがパワーオンできない
vSphere Client を介して vCenter Server 6.7 で固定 IP アドレスを使用する vCloud Usage Meter 3.6.1 アプライアンスをデプロイすると、vCloud Usage Meter 3.6.1 仮想マシンをパワーオンできません。

回避策: vSphere Web Client を使用し、固定 IP アドレスを使用する vCloud Usage Meter 3.6.1 をデプロイします。

- **ファイル システムのタイムアウトが発生すると vCloud Usage Meter のファイル システムが読み取り専用に切り替わる**

この問題は vCloud Usage Meter アプライアンスが SAN ベースのデータストアにインストールされている場合に発生します。

回避策: タイムアウト値を増やすことでこの問題を回避できます。ディスクのタイムアウト値を増やす方法については、<http://kb.vmware.com/kb/1009465> を参照してください。

- **Site Recovery Manager の問題:**

- Site Recovery Manager によるデータ収集が失敗し、
「fault.drextapi.fault.NoPermission.summary」というエラーが表示される

- Site Recovery Manager が **管理 > 製品** ページに正しく表示されない

どちらの問題も Site Recovery Manager のログインが正しく構成されていないことを示しています。

回避策: SSO を使用している場合は、<http://kb.vmware.com/kb/2124935> で SSO ペアリングの問題を解決する方法を参照してください。

SSO を使用していないにもかかわらずこの問題が発生する場合は、Site Recovery Manager が正しく構成されていることを確認してください。詳細については、VMware vCenter Site Recovery Manager ドキュメント センターにある『[Site Recovery Manager Installation and Configuration](#)』を参照してください。

- **vCloud Usage Meter Web アプリケーションの顧客タブに同じ顧客が重複して表示されることがある**

vCloud Director を計測の対象として追加すると、vCloud Usage Meter が vCloud Director の組織情報を使用して顧客を検出し、「組織名 (組織 ID)」という形式で顧客を作成します。これらの顧客名を変更すると、vCloud Usage Meter は新しい組織が追加されたものと認識して、新しい顧客を作成します。

回避策: 自動的に生成された vCloud Director 顧客名を変更しないでください。

- **vCloud Usage Meter が vRealize Operations Manager 6.6 を検出できない**

vRealize Operations Manager 6.6 には vSphere Web Client プラグインが含まれていません。その結果、vRealize Operations Manager は関連付けられている vCenter Server のプラグインとして登録されず、vCenter Server の拡張機能マネージャに登録されません。そのため、vCenter Server が計測の対象として追加された場合、vCloud Usage Meter はそのサーバに関連付けられている vRealize Operations Manager を検出できません。

回避策: なし。

- **vRealize Operations Manager でデータ収集が失敗する**

回避策: 新しい vRealize Operations Manager を追加する際、必要な認証情報を入力する前に証明書を受け入れます。

- **古いデータを削除した後、Web アプリケーションのレポート ページにレポートとライセンス キー セットが表示されない**

回避策: この問題を回避するには、vCloud Usage Meter アプライアンスを再起動します。

- **vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで、vRealize Operations 6.6 にアップグレードした後に vRealize Operations のバージョン番号が正しく表示されない**

vRealize Operations をバージョン 6.6 にアップグレードします。関連付けられている vCenter Server を vCloud Usage Meter 3.6 に追加すると vRealize Operations が検出され、vRealize Operations サーバの詳細および正しい製品バージョンである 6.6 が表示されます。vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで、[vRealize Operations Manager] セクションの**再構築**をクリックすると、vRealize Operations の製品バージョンが vRealize Operations 6.5 などの vRealize Operations の前のバージョンに変更されます。

回避策: この問題を回避するには、次のデータ収集が成功するまで待ちます。データ収集に成功した後に、正確な vRealize Operations Manager のバージョンが表示されます。

- **追加するか、または再度有効にした製品が vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションの製品リストに表示されない**

vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで製品を追加するか、または再度有効にした後で、その製品が**管理 > 製品**タブの製品リストに表示されません。

回避策: この問題を回避するには、Web ブラウザのページを更新します。

- **vCloud Usage Meter コンソールにログインするとブルー スクリーンが表示され、「BUG: soft lockup detected on CPU#1」というエラー メッセージが表示される**

Linux カーネルにはソフト ロックアップ ウォッチドッグ スレッドがあり、ウォッチドッグ スレッドのスケジューリングが 10 秒以上行われていない場合にソフト ロックアップ メッセージが表示されます。仮想マシンでシステムを実行している場合、このエラーは高レベルのオーバーコミットメントが発生していることを示しています。ソフト ロックアップ メッセージはカーネルパニックではなく、通常は大量のリソースが仮想マシンで使用されている場合に表示されます。

回避策: ソフト ロックアップのしきい値を調整することでこの問題を回避できます。

/proc/sys/kernel/watchdog_thresh ファイル（最新バージョンのカーネルの場合）、または /proc/sys/kernel/softlockup_thresh ファイル（古いバージョンのカーネルの場合）を編集する必要があります。詳細については、<http://kb.vmware.com/kb/1009996> を参照してください。

- **vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで E メールを設定する際に、エラーが発生してログにエラー メッセージが記載される**

Web アプリケーションの**管理 > プロバイダ**タブに入力したメール アドレスは、VMware に送信される Eメールの送信先アドレスとして使用されます。メール サーバの許可リストにないメールアドレスを入力すると、エラー メッセージが表示され、Relay access denied エラー メッセージがログに記録されます。

回避策: この問題を回避するには、サービス プロバイダの詳細を設定する際に入力するメールアドレスがメール サーバに登録されていることを確認します。サービス プロバイダの詳細を設定する際に、メール サーバの許可リストに記載されているメールアドレスを入力します。

- **デフォルトの読み取り専用権限があるユーザー アカウントを使用して vCenter Server のデータ収集を行うと、ログ ファイルに次のエラー メッセージが記録されて失敗する**

ERROR [Collector] vc.VCenterCollector: com.vmware.pbm.RuntimeFaultFaultMsg

回避策: この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. vSphere Web Client にログインします。
2. **[管理] > [ロール]**の順に移動します。
3. **[ロールの作成]**ボタンをクリックします。
4. 新しいロールの名前を入力します。

5. 次の権限を選択します。

[プロファイル駆動型ストレージ] > [プロファイル駆動型ストレージ ビュー]

6. vCloud Usage Meter の収集に使用するユーザーに新しいロールを割り当てます。

移行

vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に、次の問題が発生することがあります。

- **vCloud Usage Meter 3.5 と vCloud Usage Meter 3.6 から生成されたレポートの vSAN の合計使用容量が異なることがある**

vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に、vCloud Usage Meter 3.5 から収集された vSAN Enterprise の使用量データは vSAN Standard に変換されます。通常は、すべてのカテゴリの使用量を合計すると、vSAN レポートの値は vCloud Usage Meter のバージョン 3.5 と 3.6 の間で一致します。vSAN ライセンスのカテゴリを別のカテゴリに変更すると、問題が発生することがあります。vCloud Usage Meter 3.5 で vSAN 使用量のレポートを作成する方法が原因で、vCloud Usage Meter は、vSAN ライセンス カテゴリが変更されたクラスタを 2 つの異なるクラスタとしてカウントすることがあります。その結果、vCloud Usage Meter 3.5 が報告する vSAN の合計使用量が vCloud Usage Meter 3.6 の同じクラスタの使用量より多くなる場合があります。

回避策: この問題を回避するには、VMware に vSAN ライセンスのカテゴリを変更した月の vSAN 使用量を報告する際に、vCloud Usage Meter 3.6 のデータを使用します。

- **vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に、vCloud Usage Meter 3.5 のレポートの vSAN Enterprise カテゴリがなくなり、vSAN Enterprise の使用量が vCloud Usage Meter 3.6 のレポートの vSAN Standard カテゴリに追加される**

vCloud Usage Meter 3.5 では、vSAN レポートはライセンスごとに編成されます。vCloud Usage Meter 3.5 は、vSAN Standard、vSAN Advanced、および vSAN Enterprise のライセンスを報告します。以前の vSAN Standard と vSAN Advanced の使用量データは問題なく移行できます。

vCloud Usage Meter 3.6 は、使用する機能に応じて vSAN Enterprise の使用量を報告します。

vSAN の機能の検出方法により、vCloud Usage Meter 3.6 は使用する機能に応じて、次の 4 つのカテゴリのいずれかに基づいて vSAN Enterprise の使用量を報告します。

- vSAN Standard
- vSAN Advanced
- vSAN Standard (アドオン付き)
- vSAN Advanced (アドオン付き)

vCloud Usage Meter 3.6 は、以前の期間の機能の使用を検出できないため、vCloud Usage Meter 3.5 で報告された vSAN Enterprise の使用量は、vCloud Usage Meter 3.6 の vSAN Standard にマッピ

ングされます。その結果、vCloud Usage Meter 3.5 と vCloud Usage Meter 3.6 で生成された vSAN レポートの間に差異が生じることがあります。

回避策: この問題を回避するには、次の 2 つの方法があります。

- vSAN のデータを月の最初の 3 日以内に vCloud Usage Meter 3.6 に移行します。
- vCloud Usage Meter 3.5 の vSAN レポートを vCloud Usage Meter 3.6 で生成された vSAN レポートと比較しないようにします。

- **vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に NSX Advance および Base エディションのスタンドアロンレポートを生成できなくなる**

vCloud Usage Meter 3.6 では、NSX Enterprise エディションに対してのみスタンドアロンレポートの作成がサポートされています。NSX Advance および Base エディションのスタンドアロンレポートを作成することはできません。これは、新規の計測データと移行された計測データの両方に該当します。使用量の値は NSX Enterprise の使用量に統合または加算されます。NSX Enterprise のスタンドアロン使用量には、NSX Base、NSX Advanced、および NSX Enterprise の各エディションのすべての値が含まれます。

回避策: なし。

- **NSX のスタンドアロンレポート データを移行すると、古い NSX のバンドルレポート データが移行されることがある**

移行の開始時に **スタンドアロンとして NSX の使用量をレポート** チェック ボックスが選択されている場合、移行完了後に vCloud Usage Meter 3.6 で古い NSX のバンドルが報告されることがまれにあります。

回避策: この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで、**管理 > レポート**の順に移動します。
2. **スタンドアロンとして NSX の使用量をレポート** チェック ボックスを選択解除します。
3. **保存**をクリックします。
4. 右上隅にあるメニュー バーで**レポート**をクリックします。
5. **レポート** ドロップダウン リストから**月次使用量**を選択します。
6. **参照**をクリックします。
7. **管理 > レポート**の順に移動します。
8. **スタンドアロンとして NSX の使用量をレポート** チェック ボックスを再び選択します。
9. **保存**をクリックします。

これで月次使用量レポートから NSX バンドルのデータが削除されます。

- **移行後に監視ページとコレクタ ログで vRealize Automation のライセンスの問題がレポートされる**

vCloud Usage Meter 3.6 へのデータの移行後、**監視**ページとコレクタ ログに次のエラーが表示されます。

vRealize Automation Cafe ホストのライセンスが見つかりません: <vRealize Automation ホスト名>

そのため、**月次使用量レポート**内の**製品サーバごとの仮想マシン**フィールドおよび**月次使用量単位**フィールドに表示される vRealize Automation 管理対象仮想マシンの数は増えません。

回避策: この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. vCloud Usage Meter 3.6 に使用量データを移行します。
 2. vCloud Usage Meter 3.6 Web アプリケーションで**管理 > 製品**に移動します。
 3. ライセンス エラーを返す **vRealize Automation** インスタンスの横にある**編集**ボタンをクリックします。
 4. 該当する vRealize Automation Café アプライアンスの認証情報を入力します。
 5. **保存**をクリックします。
 6. データ収集を実行します。
- **vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に、Site Recovery Manager のデータ収集が失敗する**
vCloud Usage Meter 3.6 に設定と計測データを移行した後の Site Recovery Manager のデータ収集中にエラー メッセージが表示されることがあります。

回避策: この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. vCloud Usage Meter Web アプリケーションで、**管理 > 製品**の順に移動します。
 2. Site Recovery Manager のピアになっているすべての vCenter Server インスタンスで、**編集と保存**をクリックします。
- **vCloud Usage Meter 3.6 への移行後に、月次使用量レポートと製品サーバごとの仮想マシンで vRealize Operations Manager の数が少なくなることがある**
数の減少には、次の 2 つの理由が考えられます。
 - vCloud Usage Meter 3.5 では仮想マシンの一意の最大数が計算され、vCloud Usage Meter 3.6 では仮想マシンの平均数が計算されます。
 - vCloud Usage Meter 3.5 ではパワーオンとパワーオフの両方の状態の仮想マシンが計算され、vCloud Usage Meter 3.6 ではパワーオン状態の仮想マシンのみが計算されます。

回避策: なし。

レポート作成

このセクションには、vCloud Usage Meter 3.6 レポートに関する問題が記載されています。

- **月次使用量レポートの生成が、整数オーバーフローが原因でエラー メッセージと共に失敗する**

単一の vCenter Server 上で 1 か月間、同一の NSX ライセンスを使用する NSX が有効な仮想マシンを 858 台を超えて実行すると、月次使用量レポートの生成が以下のエラー メッセージと共に失敗します。

```
Production of the Monthly Usage report has failed: org.postgresql.util.PSQLException: Bad value for type int.
```

回避策: なし。

- **vSAN の重複排除機能をオンにしている場合、vCloud Usage Meter レポート上の使用済み容量の合計と、vCenter Server クラスタでの vSAN の [使用済み - 合計] の値との間に差が生じる**

この問題は、vSAN の重複排除機能をオンにしている場合の vSAN バージョン 6.6 および 6.6.1 にのみ関係します。vSAN バージョン 6.2 および 6.5 では、重複排除機能をオンにしている場合でも計測は正確に行われます。

重複排除機能をオフにしている場合は、サポート対象のすべての vSAN バージョンで計測は正確に行われます。

回避策: なし

- **vCloud Director の収集完了までの時間が長い**

vCloud Director で非常に多くの数の vApp を管理している場合、vCloud Director の収集作業が完了するまでに長い時間がかかり、vCloud Usage Meter のログに次のエラーが記録されて作業が失敗することがあります。

```
ERROR [Primary collection timer] collect.Collector: Collection didn't finish within 45 minutes.
java.util.concurrent.TimeoutException: Futures timed out after [45 minutes]
at scala.concurrent.impl.Promise$DefaultPromise.ready(Promise.scala:219)
at scala.concurrent.impl.Promise$DefaultPromise.ready(Promise.scala:153)
at scala.concurrent.Await$$anonfun$ready$1.apply(package.scala:86)
at scala.concurrent.Await$$anonfun$ready$1.apply(package.scala:86)
at scala.concurrent.BlockContext$DefaultBlockContext$.blockOn(BlockContext.scala:53)
at scala.concurrent.Await$.ready(package.scala:86)
at com.vmware.cloud.usgmtr.collect.Collector$.collectAll(Collector.scala:256)
```

回避策: この問題を解決するには、vCloud Director セル管理ツールを使用して maxPageSize の値を増やし、128 行を超えるページサイズの要求を許可します。デフォルトでは、maxPageSize はページあたり 128 行に設定されています。

たとえば、512 行のページの要求を許可するには、次のコマンドを実行します。

```
./cell-management-tool manage-config -n restapi.queryservice.maxPageSize -v 512
```

vCloud Director セル管理ツールの詳細については、VMware vCloud Director 8.20 ドキュメント センターの「[セル管理ツール リファレンス](#)」の章を参照してください。

- **vCloud Usage Meter 3.6 と vCloud Usage Meter 3.5 で、当月の vSAN レポートの対象が異なる**

vCloud Usage Meter 3.5 では、レポート対象月の初日から末日、またはレポート生成時点のいずれか早い方までの平均値が vSAN の使用量としてレポートされます。一方、vCloud Usage Meter 3.6 では、常にレポート対象月の初日から末日までの平均値が vSAN 使用量としてレポートされます。新しい vSAN 使用量の計算ロジックは、vCenter Server で生成される RAM 使用量のレポートと似たロジックになっています。その結果、vCloud Usage Meter 3.5 レポートの数値は、月全体で最終的に報告される数値に近くなります。vCloud Usage Meter 3.6 レポートでは、月全体でゼロから最終的な月次使用量まで定常的に増加します。

回避策: レポート対象月の末日を過ぎてから vSAN レポートを生成してください。

- **月次使用量レポートに vSAN が有効なクラスタのライセンス情報とバージョン情報が表示されない**

vSAN が有効なクラスタを含む vCenter Server を vCloud Usage Meter から削除すると、同月の月次使用量レポートにライセンス情報とバージョン情報が表示されなくなります。

回避策: なし。

- **追加の Platform Service Controller (PSC) 情報を入力せずに外部 PSC の SSO サービスを使用する vCenter Server を追加すると、vSAN レポートが不正確になる**

vCloud Usage Meter 3.6 は以前のバージョンの vCloud Usage Meter とは異なる方法で vCenter Server に接続します。以前のバージョンの vCloud Usage Meter では直接ログインを使用して vCenter Server に接続していましたが、vCloud Usage Meter 3.6 では SSO サーバからトークンを取得した後、そのトークンを使用して vCenter Server インスタンスにログインします。vCloud Usage Meter に追加する vCenter Server と同じシステム上に SSO サーバがある場合、ユーザーによるその他の操作は不要です。vCenter Server が PSC 上にある SSO サーバを使用している場合に PSC のホスト IP アドレスと SSO ポートを入力しなければ、vCloud Usage Meter は vSAN の特定の機能を検出できません。結果的として、vCloud Usage Meter 3.6 は不正確な vSAN レポートを生成します。

回避策: この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. vCloud Usage Meter Web アプリケーションで、**管理 > 製品**に移動します。
2. vCenter Server の横にある**編集**をクリックします。
3. **外部 Platform Service Controller** チェック ボックスを選択します。
4. テキスト ボックスに **Platform Service Controller のホスト名**を入力します。
5. テキスト ボックスに **Platform Service Controller のポート番号**を入力します。vCloud Usage Meter はデフォルトでポート 7444 を使用します。
6. **保存**をクリックします。

- **vSAN が有効なクラスタの名前を変更すると、月次使用量レポートにそのクラスタのライセンス情報とバージョン情報が表示されない**

vSAN が有効なクラスタの名前を変更すると、名前が変更された月の月次使用量レポートにある vCenter Server ごとの vSAN 使用量セクションに、古いクラスタ名のライセンス情報とバージョン情報が表示されなくなります。vCloud Usage Meter に表示されるのは vSAN クラスタの現在のライセンス キー情報とバージョン情報のみであるため、表示できるのは新しいクラスタ名のライセンス情報とバージョン情報のみになります。

回避策: なし。

- **vCloud Usage Meter 3.6 が NSX 以外のクラスタ オブジェクトの分散ファイアウォール (DFW) ルールを検出し、NSX Advance の使用量が報告される**

NSX をクラスタ レベルでインストールします。マルチクラスタ環境では、NSX クラスタと非 NSX クラスタの両方を使用している場合があります。NSX Distributed Firewall ルールを適用する場合は、環境内のすべての NSX クラスタに適用します。vCloud Usage Meter 3.6 は、NSX クラスタと非 NSX クラスタの両方に作成されたルールを検出して報告します。その結果、非 NSX クラスタの NSX Advance の使用量が報告されることがあります。

回避策: なし。これは、想定どおりの動作です。

- **最初のデータ収集後に vCloud Usage Meter 3.6 で別の NSX バンドルのレポートが生成される**

vCloud Usage Meter 3.5 では NSX のエディションを手動で選択していましたが、vCloud Usage Meter 3.6 では使用されている機能に基づいて NSX のエディションが自動的に検出されます。たとえば、移行前に vCloud Usage Meter 3.5 で NSX Advance を手動で選択していた場合、移行後は vCloud Usage Meter 3.6 での次のデータ収集までそのエディションが単にオーバーライドされます。vCloud Usage Meter 3.6 は NSX Enterprise として実際の機能の使用を検出し、手動で選択された NSX Advance バンドルの計測を停止し、新しい NSX Enterprise バンドルの計測を開始します。このシナリオは、vCloud Usage Meter 3.5 の NSX Base、NSX Advance、NSX Enterprise の各ライセンス エディションに該当します。vCloud Usage Meter 3.6 の機能検出モジュールは、データ収集後にライセンスのエディションに対応した修正を行います。

回避策: なし。

- **Horizon DaaS テナントのレポートを JSON 形式でエクスポートできる**

JSON 形式は内部使用を目的としており、ユーザーの使用を目的としたものではありません。このエクスポート オプションは無視してもかまいません。JSON 形式でのレポートのエクスポートは、他のすべてのレポートに対して抑止されており、vCloud Usage Meter の次のリリースで Horizon DaaS テナントのレポートに対しても抑止されます。

回避策: なし。

- **管理対象の vCenter Server の vRealize Operations の使用量が、管理対象外としてレポートされることがある**

vRealize Operations のデータ処理に関するバグが原因で、管理対象の vCenter Server の vRealize Operations の使用量が管理対象外としてレポートされることがあります。

回避策: この問題を回避するには、新しい vCloud Usage Meter インスタンスをインストールして設定し、vCenter Server ホストを、vRealize Operations Manager 側で登録する際に使用したのと同じ大文字/小文字で、登録します。

- **vCloud Usage Meter で vSAN の計測が行われない**

vCloud Usage Meter は、有効な vSAN 機能に関する情報を関連する vCenter Server から収集して、vCloud Usage Meter 内に保存します。特定の場合に、vCloud Usage Meter は使用されている vSAN 機能に関する情報の読み取りに失敗します。結果として、vCloud Usage Meter のレポートに vSAN 使用量情報が含まれません。

回避策: なし。この問題は vCloud Usage Meter 3.6.1 で修正されました。